

(別紙) パブリックコメント結果

平成29年3月13日

小金井市交通安全計画（案）（平成28年度～平成32年度）に対する意見及び検討結果について

意見募集期間：平成29年1月4日から2月3日まで

意見提出数：2人・2件

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1		<p>自動二輪車安全運転実技教室（無料）開催 市民及び都民のバイク事故を少しでも減らしたい、30数年前に市民のバイク同好会が基になってバイク教室を開き、100人まで参加者が増えた時点で警視庁に譲り、その教室が現在の試験場での警視庁本部の実施している教室です。</p> <p>これまで、警視庁本部の委嘱特別指導員としてボランティアで家裁や学校関係を広範囲で活動してきましたが、再度市内で教室の開催をしたいと考えております。</p> <p>もし、予算化出来るなら、ボランティアで参加している指導員の昼食等の負担をお願い出来たらありがたいです。開催は2か月に一度位と考えております。</p> <p>出来れば市内の教習所の借用を考えております。</p>	<p>二輪車乗車中の死者数は近年減少していますが、依然として死者の約4分の1を占めており、この割合は全国と比較して高い状況となっております。</p> <p>市としましては、個別な財政的援助については難しいと考えておりますが、二輪車事故防止の必要性は認識しており、関係機関と協力しながら市民に対して二輪車安全教室のPRを実施していき、二輪車の安全対策を推進していきます。</p>

2	<p>小金井市内の事故発生状況を見ると、15歳以下の子供達の中で小学生が一番多い。私は四年前から小学校の通学路安全ボランティアをしているが、私の住む地区から通う児童約200名が、ある市道では、車の進入規制やガードレール等の保護も無く、車の真横を通り通学している。雨の日には傘がぶつかる事も有る程近い距離だ。通学路に指定されているにも関わらず、スクールゾーンが実施されていない為、児童が車の真横を歩く事を強いられ、毎日人身事故の危険に晒されている。社会で頻発している通学中児童の死傷事故が当該道路でいつ起こってもおかしく無い状況だ。</p> <p>この道は毎年通学路点検で父兄から要望が有り検討対象になるが、行政や警察の反応は極めて鈍く、率先して児童の安全を確保しようという姿勢は全く見られない。通学路点検に来た貴課の職員に意見を言った処、「じゃどうすれば良いんですか?」と聞き直された時は本当に呆れてしまった。少子高齢化により地域の児童数が減少し、見守りに参加する保護者数も年々減っている。又、現時点でも見守りボランティアの方々は高齢で、今後の更なる高齢化は明らか、確実にこれまでの様な手厚い見守り活動が難しくなる。先日、見守りでご一緒する警察官の方から、「通学中大きな道路を渡る時、児童が複数の横断歩道をそれぞれに渡れば、全部を見守る事は出来ないが、多少不便になるが、渡る横断歩道を学校が一つに指定する事で警察官や、地域ボランティアの人数が少なくても、</p>	<p>当該箇所につきましては、第四小学校の通学路であり、ご指摘の状況であることは認識しているところです。</p> <p>市ではこれまでの交通安全通学路安全点検開催時に学校側より様々な安全対策のご要望を受ける中で、当該箇所においてもご要望を踏まえまして路面表示や路側帯部分のカラー舗装、注意喚起看板等、可能な範囲での対応を行ったところです。</p> <p>今後も要望等を踏まえながら、交通管理者や道路管理者、教育委員会と一体となって児童の登下校時における交通安全を推進して参りたいと考えております。</p>
---	---	--

		<p>児童を見守る事が可能になり安全度は大幅に増す」とご提案を頂いた事が有る。この様な方法ならば、お金も掛からず新たな規制も必要ない。当市でもやる気さえ有れば直ぐに実現が可能だと思う。本気で行政が子供や高齢者の交通安全対策を掲げ、本気で実現しようとするならば、私達と連携し、地域に分け入って実情を知った上で対策を考え無ければ意味が無い。役所内各課の横断的な仕組みや、地域との密な連携は元より、その代表で有る議員の積極的な参加が不可欠だが、こういったパブコメを何人の議員や担当課の職員が読むのだろうか？スローガン有りきの総花的文書として計画を作るのでは無く、寄せられた意見に真剣に耳を傾け、本当に子供や高齢者の交通安全に資する対策を行う為に、本計画を策定して戴きたいと願う。</p>	
--	--	--	--

※提出された意見は、原則として全文を掲載します。なお、同趣旨の意見が多数ある場合は、(他に〇件) と表示します。